

news.



ついに日本でも始動! 「インターネット1996ワールドエクスポジション」

7月21日、幕張メッセで開催された「ネットワールド+インターロップ'95トーキョー」の会場で、1996年に開催を予定しているインターネット上のバーチャル万国博覧会「インターネット1996ワールドエクスポジション」の日本での活動概要が発表された。今月はこのニュースから紹介しよう。

記者会見に出席したのはこの企画の立案者である米インターネットマルチキャストサービスのカール・マラムッド氏、日本における実行委員長である慶応義塾大学環境情報学部助教授でWIDEプロジェクトの代表村井純氏、そして協賛会社であるソフトバンク・エキスポ・ジャパンの石川和憲氏、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター所長の公文俊平氏、株式会社アスキー社長の西和彦氏の5名だ。

21世紀の「エッフェル塔」を目指す

この「インターネット1996ワールドエクスポジション」は、インターネット上のバーチャル万国博覧会で、アメリカ、日本のほか、イギリス、オランダ、カナダ、フランス、タイ、シンガポール、韓国などからの参加が表明されている。これらの国々

を「インターネットレイルロード」と呼ばれる45Mbpsの超高速バックボーンで接続し、その周りにはテラバイトクラスのファイルサーバーを設置するというプラン。

そこで「パピリオン」というさまざまな展示や実験をしたり、多くの人がアクセスできるためのターミナルを設置した場所を作ったりする。たくさんの人々が集まる「インターネットタウンホール」のほか、「世界の学校パピリオン」「トースターネッ



記者会見の様子（右から石川和憲氏、カール・マラムッド氏、村井純氏、公文俊平氏、西和彦氏）

トパビリオン」「未来のメディアパビリオン」「スモールビジネスパビリオン」などテーマ別の出展も募る。「トースターネットパビリオン」は、いままでインターネットとは無縁だったものをつなぎこんでしまおうというユニークな企画だ。

このような各パビリオンで使われる技術は、これまでWIDEプロジェクトなどで培ってきたものを組み合わせたり、必要になった技術をさらに開発したりしていくことを考えているとのことだ。

これまで開催されてきた「万博」は、新技術を開発する原動力になり、結果としてパリ博におけるエッフェル塔のように、その象徴となる資産を残してきた。このインターネット1996ワールドエキスポジションも、21世紀のエッフェル塔になることを目指して、インターネットをさらにつぎのステップへと進めることを目的としている。

日米間に45Mbpsのバックボーン

記者会見では、実行委員会と組織委員会の発足について発表され、実行委員会の委員長には村井純氏が就任したことが発表された。カール・マラムッド氏からは、米政府から賛意を表すメッセージが読み上げられた。

また、まだまだ具体的には関係方面と調整中の部分も多いとしながらも、日米間に45Mbpsのバックボーンを敷設し、国内でも数か所の拠点で45Mbpsの回線で結ぶことが決定したという発表があった。米国内のバックボーンに関してはMCIが、太平洋ラインに関しては国際電話会社が、日本国内に関しては日本電信電話会社がそれぞれ提供するという。ただし、具体的な接続方式やどのような種類のラインを使うのかという点については明言を避けた。すでにタリフ（利用料金）が決まっている回線については、特別な扱いができないため、まだタリフが決まっていない実験用の回線

を「試用」することになるだろうとのことだ。独自のコンテンツ企画としては、長崎のハウステンボスから都市の景観、歴史、文化などオランダという都市や自然の環境情報にインターネットを通じて触れることができるという企画があがっている。マルチメディアを駆使して自然環境をリアルに体験できる。

また、インターネットに接続された車を作り、世界中からその車がどこを走っているのかを見ることができるようになる。インターネット水族館という企画は、テレビカメラを搭載した小さなロボットを水族館におき、これをインターネットから制御して観察ができるというものだ。

これらの企画に関わる総予算は10億円。その費用はパビリオンとしてこのネットワークに参加する各企業や組織からの参加費によってまかなう。1社当たりの参加費用は200万円くらいになる予定だ。詳しい参加概要は8月下旬に発表になる模様。

あなたも万博に出展できるかも！

本誌読者の方にも大いに関係があるトピックスが1つある。現在発行されている各種のインターネットの専門誌上で、読者からのインターネット利用のアイデアを募集し、優れたアイデアには128Kbpsの専用線を総計200家庭くらいに提供し、万博へ出展することができるようにしたいという。本誌でも読者からのアイデア募集を近々予定しているので、期待してしてほしい。詳細についてはまだ未定だ。

問い合わせ インターネット1996ワールドエキスポジション準備室

TEL 03-3583-2637 FAX 03-3266-2509

「インターネット1996ワールドエキスポジション」の立案者であるカール・マラムッド氏のインタビューが本誌126ページに掲載されているので、そちらもぜひお読みいただきたい。

記者発表の様子はココ！



URL

<http://realtimes.impress.co.jp/realtimes95/event/keynote/>

この記者会見の様子の録音はインターネット「リアルオーディオ」というインターネットのアプリケーションで聞くことができます。この録音を再生するためのソフトウェアは「<http://www.realaudio.com/>」から入手することができます。



「インターネット1996ワールドエキスポジション」の最新情報はココ！



URL <http://town.hall.org/fair/>

カール・マラムッド氏のサーバーに、企画の詳しいコンセプトや現在の最新情報が公開されています。興味のある方はぜひご覧ください。



新規プロバイダー情報

沖縄や福井、石川、山梨など 地方の企業による参入相次ぐ

商用サービスプロバイダーの増加が加速している。現在、8月から10月にかけて十数社が参入を表明している。昨年から今年前半にかけては大企業の参入が相次ぎ、注目を集めてきた。今年後半からは地方の企業による参入が増えてきている。また、パソコンショップが自店での購入者に絞った接続サービスを提供するなど、サービス形態も多様化しつつある。

沖縄にプロバイダーが登場

アクセスポイントが少なかった沖縄県で、地元の企業が初めて参入した。サービス名は「InfoRyukyu」。沖縄富士通システムエンジニアリングが7月から営業を開始しており、InfoWebに接続している。現状では専用線接続だけのサービスだが、ダイヤルアップIP接続も年内に予定している。ISDN料金は初期費用が50,000円、月額費用は64Kbpsが196,000円、128Kbpsが320,000円、256Kbpsが500,000円、384Kbpsが750,000円。最低利用期間は1年間となっている。

8月からのスタート

8月から営業を開始したのは金沢市の三谷産業。同社はコンピュータ販売などを行う情報関連サービス会社。InfoSphereに接続している。提供品目はダイヤルアップIP接続と専用線接続。ダイヤルアップIPのアナログ回線の場合、個人は入会金2,000円、月額1,800円。専用線は64Kbpsが入会金20,000円、月額50,000円と低価格に設定されている。

山梨県でも新しいプロバイダーが登場した。サービス名は「山梨インターネット」。提供品目はダイヤルアップIP接続が初期費

用10,000円、年額35,000円、専用線は初期費用50,000円、ダイヤルアップ接続のアナログが150,000円、64Kbpsが250,000円、128Kbpsが350,000円、192Kbpsが450,000円、256Kbpsが550,000円、384Kbpsが650,000円。専用線の料金はルーターのレンタル料金を含んでいる。同社は災害や緊急時において、無料で緊急アカウントの発行や通信機器の貸し出しなどを提供できる体制を整える予定。協力してもらえらるボランティアを募集している。

ウェルメットは東京インターネットと接続し、8月14日から「ウェルメットインターネットサービス」を開始する。アクセスポイントは東京で、大阪や横浜など、ほかの大都市での開設の準備もすすめられている。料金はダイヤルアップIP接続が初期費用なし、年定額36,000円。専用線接続は初期費用50,000円、64Kbpsが月額200,000円、128Kbpsが300,000円、256Kbpsが500,000円となっている。なお、ダイヤルアップIP接続には身体障害者割引が設定されており、年定額26,000円で利用できる。

9月からのスタート

8月に三谷産業が参入した金沢市。9月からはさらに、日本海ネットが運営する「NSK Internet Service」がInfoSphereと接続してスタートする。料金は個人の場合ダイヤルアップIP接続が初期費用3,000円、従量課金制の場合月額1,800円で6時間まで、以降1分10円。定額制の場合、年額198,000円。専用線は初期費用30,000円、月額64Kbpsが80,000円、128Kbpsが120,000円。いずれも1年以上の契約となる。同社ではWWWサーバーの開設サービスも提供。セミナーや講演会の開催も予定している。

埼玉県川口市では「彩(さい)ネット」がスタートする。アクセスポイントは当初川口市のみだが、県内に多数の開設が予定されている。登録料は3,000円。ダイヤルアップ接続はさらに初期費用5,000円、UUCP接続は3,000円となっている。月額使用料は2,500円。専用線サービスも提供する。申し込みはオンラインサインアップを利用することができる。

福井市の江守商事も、InfoSphereと接続して9月からサービスを開始する。接続サービス名は「INTERBROAD」。初期費用は11月末まで無料。月額はダイヤルアップ接続が個人の場合5,000円、法人の場合15,000円。ほかにWWWサーバーの貸し出しや、コンテンツ作成支援なども行う。

以前にKIBA-NETとしてプロバイダーへの参入を表明して8月から試験運用を予定していた関西インターネットビジネス協会は、新たに「CRインターネット」として9月から本格運用を開始する。同サービスでは専用線接続の場合、独自ドメインを取得するかしないかで料金体系が2通りある。取得しない場合は、旧「関西インターネットビジネス協会」のアドレスである「kiba.or.jp」のサブドメインとして名称が割り当てられる。価格は独自ドメインを取得しない場合、初期費用50,000円、64Kbpsが月額50,000円、128Kbpsが75,000円。取得する場合は初期費用70,000円、64Kbpsが月額70,000円、128Kbpsが月額150,000円となっている。ほかにLAN型ダイヤルアップ接続もサポートしており、同じように料金体系が2通りになっている。端末型ダイヤルアップ接続はグループへの対応のみで、個人向けには提供しない。アクセスポイントは大阪と堺、京都。

10月からのスタート

10月からはスペースブライが運営する「ネットラビュタ」がスタートする。アクセスポイントは東京、横浜、千葉、福岡など

の開設を予定している。料金はダイヤルアップIP接続が初期費用10,000円、年額20,000円。専用線接続が初期費用50,000円、64Kbpsが月額150,000円、128Kbpsが250,000円、256Kbpsが400,000円。ダイヤルアップ接続はオンラインサインアップでの申し込みが可能。

アークインターナショナルも10月から接続サービス「NetEye」を開始する。提供するのは専用線接続のみで、初期費用が80,000円、64Kbpsが月額70,000円、128Kbpsが140,000円、192Kbpsが210,000円、256Kbpsが280,000円。

千葉県銚子市にもプロバイダーが登場した。サービス名は「銚子インターネット」。アナログ回線のダイヤルアップIP接続のみのサポートで、アクセスポイントは銚子市。初期費用は10,000円で、月額固定制と従量制の2通りの料金体系。従量制の場合、月額基本料が3,000円で3時間まで、それ以上は1分30円。定額制の場合、月額9,000円で提供する。

ダイナミックシステムも10月からサービスを開始。料金はダイヤルアップIP接続が初期費用40,000円、月額25,000円。ホームページ構築用のハードディスクの10Mバイト分の使用料が含まれる。専用線接続の料金は初期費用が50,000円、64Kbpsが月額980,000円、128Kbpsが160,000円、192Kbpsが210,000円。トラフィックを確保するため、一次募集は10社限定になっている。

プロサイドがサービスを開始

パソコンメーカー兼ショップであるプロサイドが、9月から自店顧客へのインターネット接続サービスの提供を開始する。あくまでもプロサイドでパソコンを購入した顧客に限定したサービスであり、プロバイダー事業に本格参入するわけではない。価格は未定だが、一般のプロバイダーに比べ、低価格が期待できるという。新しい形態の接続サービスということで注目される。

新規プロバイダー情報

ASAHI ネットとInfoSphereが28800bpsを全国展開

ASAHI ネットは、28800bps対応の高速回線「Dライン」によるインターネットのアクセスポイントを新たに札幌、仙台、名古屋、広島、福岡の5か所に開設した。これにより既設の東京、大阪、千葉、浦和・大宮、町田・相模の5か所と合わせ、全国10か所の展開となった。年内には横浜、多摩、京都、神戸、筑波でも開設を予定している。当面、DラインはインターネットのダイヤルアップIP接続専用とするが、年内にはパソコン通信接続も可能にする。

NTTPC コミュニケーションズが運営するInfoSphereも、ダイヤルアップIP接続のアクセスポイントのアナログ通信速度を全国すべて28.8Kbpsにした。さらに、8月1日から専用線接続の料金を引き下げる。改定後の料金は64Kbpsが226,000円、128Kbpsが350,000円、192Kbpsが470,000円、256Kbpsが550,000円。また、新たにNSPIXPと1.5Mbpsで、インターネットKDDと512Kbpsで接続し、回線を大幅に強化した。

日本イーエヌエスAT&Tが運営するSPINインターネットサービスも、専用線接続64Kbpsから256Kbpsまでの月額料金を8月1日から最大約9%引き下げた。ルーター込みの新料金は64Kbpsが390,000円、128Kbpsが590,000円、192Kbpsが790,000円、256Kbpsが950,000円。ルーターを含まない場合64Kbpsが350,000円、128Kbpsが550,000円、192Kbpsが730,000円、256Kbpsが890,000円。また、64Kbpsから1.5Mbpsまでの専用線サービスに長期契約割引価格を設定。3年間の契約期間で月額料金を20%割引する。さらに、アクセスポイントも、8月には千葉、9

月には福岡、10月には広島と拡充する。

IIJは8月中旬、大阪・広島間の回線を512Kbpsに増強する。また、同社は8月3日に「IIJ東北」を設立、東北地域におけるユーザーの拡大をめざす。

問い合わせ

アトソン・ASAHI ネット事務局：

TEL 03-3666-2811

NTTPC コミュニケーションズ：

TEL 03-3432-4588

日本イーエヌエスAT&T：

TEL 03-5561-5756

IIJ：TEL 03-5276-6240

沖縄富士通システムエンジニアリング・システムインテグレーション部：

TEL 098-864-0062

三谷産業・情報システム事業部：

TEL 0762-33-2982

山梨インターネット：TEL 0552-23-1245

ウェルメット：TEL 03-5431-7907

日本海ネット：TEL 0762-24-1800

彩ネット：TEL 048-259-2366

江守商事・INTERBROAD担当：

TEL 0776-67-7603

CRインターネット：TEL 06-367-8868

スペースブライ・ネットラピュタ事務局：

TEL 03-3451-6091

アークインターナショナル・NetEye事務局：

TEL 03-5385-7510

銚子インターネット：TEL 0479-25-8655

ダイナミックシステム・パソコンサポートセンター：

TEL 03-3362-1042

プロサイド：TEL 03-3255-1517

専用線料金認可される 近距離サービスの「値上げ」と遠距離サービスの「値下げ」

日本電信電話会社（NTT）がかねてより郵政大臣に認可を申請していた「高速デジタル専用線サービス」と「アナログ専用線サービス」の料金改定について、6月23日の電気通信審議会の答申をふまえ、7月28日に正式に認可された。

料金改定のポイントはつぎのとおり。

高速デジタル専用線の料金改定

- (1) 中・長距離は3%～68%の値下げ（本年9月1日から実施）
- (2) 近距離は6%～117%の値上げ（1996年4月から3年間に分けて実施）
- (3) 距離区分を14段階から16段階に細分化
アナログ専用線の料金改定

- (1) 中・長距離は2%～48%の値下げ（本年9月1日から実施）
- (2) 距離区分を9段階から18段階に細分化

高額料金の割引サービスも実施されることが決定した。

この値上げ申請は、本年3月に提出されたが、NTTのデジタル専用線の40%近くを占め、しかも最近のインターネットブームによって、もっとも利用ニーズの高い64Kbpsのデジタル専用線の近距離（15キロメートル以内）サービスが80%以上の大幅値上げになることが電気通信審議会で大きな問題として指摘され、結論が出ずに紛糾していた。今回の料金改定は、中・長距離サービスの値下げは、本年9月より即時実施され、近距離の値上げに関しては、96年4月から3段階で値上げするという形で妥結した。

問い合わせ 日本電信電話㈱ ネットワークサービス推進本部 専用サービス担当：
TEL 03-3509-5191

専用線サービスの料金表（抜粋）

単位：円 / 月額 H = 平成

| 品目 | 64Kb/s | 128Kb/s | 192Kb/s | 256Kb/s | 3.4KHz |
|------------------|---|------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------|
| 距離区分 (東京起点の主な都市) | | | | | |
| 0km | 42,000 (H8.4~)53,000 | 67,000 74,000 | 88,000 122,000 | 106,000 137,000 | 8,400 |
| 10kmまで | (H9.4~)65,000 | 82,000 | 156,000 | 168,000 | 12,000 |
| 15kmまで 川口・市川 | (H10.4~)77,000 | 90,000 | 191,000 | 200,000 | |
| 20kmまで 川崎・三鷹 | 100,000 (H8.4~)104,000 (H9.4~)108,000 | 142,000 | 215,000 235,000 255,000 | 260,000 275,000 291,000 | 27,000 |
| 30kmまで 横浜・浦和 | (H10.4~)113,000 | | 276,000 | 307,000 | 55,000 |
| 40kmまで 立川・千葉 | 129,000 | 149,000 | 335,000 | 366,000 | 75,000 |
| 50kmまで 厚木・藤沢 | 132,000 | 154,000 | 354,000 | 376,000 | 80,000 |
| 60kmまで 成田・土浦 | 134,000 | 158,000 | 361,000 | 38,4000 | 84,000 |

待望の深夜・早朝時間帯の月極定額料金 サービス「テレホーダイ」サービス開始

日本電信電話株式会社（NTT）は急速なパソコン通信の普及に対応し、新しい料金体系の導入として、深夜・早朝時間帯の特定電話番号への月極定額料金サービス「テレホーダイ」を開始した。このサービスは、利用者があらかじめ指定した特定の電話番号への通話が、特定時間帯に限り、通話回数や通話時間の長さに関係なく定額になる通話料金割引サービス。このサービスには「テレホーダイ1800」と「テ

レホーダイ3600」の2種類がある。

なお、このサービスはパソコン通信やインターネットなど以外でも利用可能。また「テレホーダイ1800」と「テレホーダイ3600」は併用できない。

問い合わせ先

日本電信電話㈱ 法人営業本部 ネットワークサービス推進部：
TEL 03-3509-4963

「テレホーダイ」のサービスの種類と料金

| 名称 | テレホーダイ1800 [市内電話番号指定型] | テレホーダイ3600 [隣接電話番号指定型] |
|--------|---------------------------|--------------------------------------|
| 定額通話料 | 1,800円 / 月 | 3,600円 / 月 |
| 割引時間帯 | 夜11時～朝8時（深夜・早朝時間帯） | |
| 指定電話番号 | 区域内通話エリアのうち2電話番号まで | 隣接区域通話（20kmまでの区域外通話を含む）エリアのうち2電話番号まで |
| サービス開始 | 95年8月22日から | 95年10月19日から |

WWWで伝える被爆50周年のメッセージ 平和記念式典の生中継も行われる

1945年8月、広島、長崎に原爆が投下されてから50年目に当たる今年は、例年以上に多くのメモリアルイベントが開かれていますが、原爆の恐ろしさを被爆地から世界の人に訴えるために、インターネットを利用しようという試みが活発になっている。

中国四国インターネット協議会（CSI）は、「ヒロシマライブプロジェクト」と題し、広島平和公園で8月6日に行われた平和記念式典の様態をインターネットで生中継した。昨年ローリングストーンズのライブで話題になったMBoneというインターネットでの放送技術を使い、市民ボランティアと広島市の協力を得てマルチメディア実験を行ったものである。番組は、中国放送が制作したモノクロ映像に、英語、スペイン語、ドイツ語、フランス語など5か国語の同時ナレーションをつけ、30分間、午前8時から生放送。その後、5回再放送した。MBoneはまだ実験段階にある仮想ネットワークで、膨大なトラフィックがかかるため、最低でも512Kbps以上の高速回線を施設した大学などでないかぎり、利用することができない。今回の放送を視聴できた人は、国内海外合わせてわずか48名だった。しかし、このときのビデオ画像や音声

は、CSIのホームページ（<http://www.csi.ad.jp/hiroshima-live/>）に掲載されている。

広島市のホームページ（<http://www.city.hiroshima.jp/>）には、平和宣言や被爆50周年への取り組みが掲載されているほか、広島平和記念資料館の原爆資料の一部を見ることができる。原爆投下前後の市内の様子や人体が受ける傷害、死亡者状況などが文書で詳しく紹介されている。

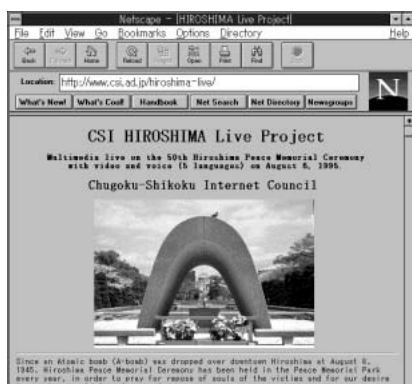
長崎市は、長崎市長の平和宣言を掲載した「長崎市平和宣言ページ」を8月9日から31日までの限定で特別公開している（<http://www.nagasaki-noc.or.jp/nabomb.html>）。9日には原爆投下時から1分間、教会の鐘の音を登録。現在は8月9日の長崎市の情景がある。また、長崎県の被爆50周年記念事業のイベントガイド「PeaceWave'95」（<http://www.cc.nagasaki-u.ac.jp/PeaceWave95/>）も提供中。

市民レベルの活動では、広島市立大学の大場充教授らが中心になるボランティアグループが、「A-Bomb WWW Museum」（<http://www.csi.ad.jp/ABOMB/>）を制作。スミソニアン博物館では原爆展が中止になったが、インターネットで正確な情報

を伝えたいと、原爆の写真、被爆者の体験談や写真、被爆跡地の情報、そして現在の広島市在住者の声など、独自に取材した記事を蓄積している。その一方で、南京大虐殺の惨状を紹介する香港のサーバーともリンクし、第2次世界対戦に対する日本人の意識について問いかけている。

広島市立鈴張小学校では、カリフォルニアにある姉妹校のアリアンザ小学校から「原爆の子の像」に関する質問を電子メールで受けたのをきっかけに、WWW上で千羽鶴プロジェクトをスタートした（<http://www.csi.ad.jp/suzuhari-es/1000cranes>）。これには安田女子大学児童情報教育学科情報コースの生徒らが協力。現在でも見られる原爆の影響を取材して紹介している。

国内だけでなく、海外サイトもある。1966年に亡くなった写真家山旗庸介氏が当時の長崎の惨状を撮影した作品集「長崎ジャーニー」が「Remembering Nagasaki」（<http://www.exploratorium.edu/>）というサイトにある。また、ドイツのケルン在住のアーティストが原爆をテーマにしたアート論「広島プロジェクト」（ミラーサイトは<http://thyme.db.its.hiroshima.cu.ac.jp/akke/HiroshimaProject/>）を公開するなど、8月13日現在、20以上のサイトを確認した。それぞれのサーバーは、互いにリンクで結ばれている。



ヒロシマライブプロジェクト



A-Bomb WWW Museum



Remembering Nagasaki

フランスの核実験再開を阻止したい！ インターネットの署名運動に各国から反響

7月から8月にかけて、フランスの核実験再開に抗議する署名運動がインターネット上で行われ、大きな関心を集めた。

この運動を始めたのは、東京大学大学院に所属する西原祐一さん、清水青史さんなど4名。6月20日から、まず、署名を促す電子メールを知り合いに送ることから始め、大勢の人に送ってほしいと呼びかけたところ、予想以上の反響で、一時は1日2000通ものメールが西原さんたちの元に届いていた。7月10日からは専用のWWWページを開いて呼びかけ、8月4日にはフランス大使館に2万人の反対署名を提出するにいった。

このWWWページでは、8月7日現在、97か国から48124人ももの署名が集まっている。西原さんたちは電子メールも集計し、

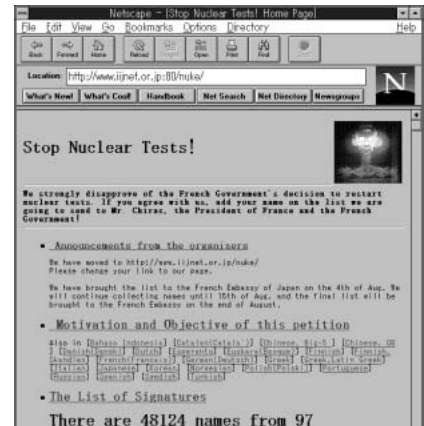
最終分として8月下旬、フランス大使館へ再度提出する予定だ。

国別集計を見ると、署名者が最も多いのはドイツの11809件。日本はこれに続く10396件。インターネット利用者が最も多いと思われるアメリカでも2664件、本国フランスは1491件で、この短期間に多くの日本人が協力していることがわかる。署名運動といえば、街頭での呼びかけをすぐに思いつくが、清水さんたちは自分たちの生活に合った一番無理のない手段としてインターネットを使うことを思いついたという。ネットニュースでは「チェーンメール」として批判の声も上がったが（183頁に関連記事掲載）、署名する側にとっては、街頭で呼び止められるより、自分の机の上で冷静に意見を表明できる。個人の意見収集シス

テムとしてインターネットを活用したひとつの事例といえる。

このホームページでは、核実験反対を訴える趣旨表明文が、ボランティアによって23種類の言語に翻訳されて掲載されている。また、署名者個別の意見や、グリーンピースなど同様の趣旨で開かれている民間団体のサーバーへもリンクを行っている。

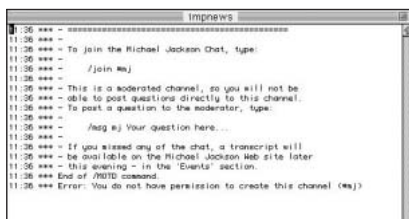
URL <http://www.iiynet.or.jp/nuke/>



Stop Nuclear Test!

マイケル・ジャクソンがIRCに登場？

日本時間8月18日の午前11時（ニューヨーク時間17日午後10時）、マイケル・ジャクソンがアメリカオンライン、コンピュサーブ、プロディジーの米国パソコン通信サービスとインターネットのIRC（Internet Relay Chat）に登場するというアナウンスが流れ、編集部も質問を用意してIRCを試みた。このイベントのために用意されたアメリカ・ソニーのIRCサーバーに接続してjoin #MJと入力すると、マイケルと会話ができるはず。しかし、図のとおり、一瞬つながったがすぐにエラー、調べてみると、肝



心のサーバーがダウンしているようだった。インターネットでチャットができるIRCサーバーは世界じゅう

にたくさんあり、誰もが新しいチャンネルを作ることができる。このためソニーのサーバー以外に#MJというチャンネルができてしまい、ソニーのサーバーに入れない人たちがそこに殺到。「Where is Michael?」という悲痛な叫びを飛び交わせることになった。翌朝の新聞には「M・ジャクソンさんインターネットでファンと会話」という見出しが踊り、会話の様子はMTVで放送されたと伝えられた。

富士フィルム、コダックへの反論 にインターネットを利用

7月31日、富士写真フィルムがインターネットのホームページを利用して「反論書」の公開を始めた。米イーストマン・コダックが米通商代表部に「日本のフィルム市場は閉鎖的だ」として富士フィルムを提訴するにあたり、インターネットで富士フィルム批判の情報を流したことがきっかけとなった。

反論書はテキストかイメージかを選択してダウンロードできるようになっている。タイトルは「歴史のかいざん」。コダックの主張が事実と異なっていることを資料とともに説明している。富士フィルムによると、「インターネットの利用は以前から計画されていたが、今回の事件をきっかけとして前倒しすることになった」という。

URL <http://www.fujifilm.co.jp/>

WWWでニュース速報 朝日新聞社「アサヒ・コム」

朝日新聞社は、WWW利用の情報発信サービス「asahi.com (アサヒ・コム)」を8月からスタートした。メニューは最新情報が更新される「ニュース速報」と、朝日新聞朝刊最終版の要旨を掲載する「朝日新聞」。また、企業が発表するプレスリリースもそのまま掲載するほか、広告も提供する。利用料金は当面無料。

問い合わせ 朝日新聞社電子電波メディア局 TEL 03-5441-8910

URL <http://www.asahi.com/>



マガジンハウスがWWWで 9月から情報サービス開始

マガジンハウスは、WWW利用のオンラインメディア「マグネットカフェ」を9月から本格的にスタートする。8月から試験運用では夏のカルチャー情報やレストランガイドなどを提供。今後は同社が刊行する最新雑誌の記事概要をサービスするほか、オンラインだけで読める情報雑誌も制作する予定。また、広告メディアとしても活用していく計画で、すでに本田技研工業など数社との協力体制を構築しつつある。

URL <http://www.magazine.co.jp/>



凸版印刷が電子週刊誌 米マルチメディア情報を提供

米国の最新マルチメディア通信情報を日本語で提供する週刊電子雑誌「Front-Line@Web」が、凸版印刷のWWWサイト「サイバー・パブリッシング・ジャパン」で8月から正式に創刊された。

同誌はニューヨークの日系出版社USフロントライン・ニュース社が企画構成するもので、すでに7月中旬から準備公開されていたが、創刊記念号では8月8～11日に開催されたマックワールドエキスポ・ボストンのレポートを特別編集して発行した。今後も米国内で開かれる展示会の独自取材記事や、米国のマルチメディア・サイバー文化の現状レポートなどを提供していく予定。また、将来は広告掲載も予定している。

問い合わせ 凸版印刷㈱トッパン・メディア・センター TEL 03-3817-2850

URL <http://www.toppan.co.jp/>

日本語ニュースの配送サービス ハッピーサイズが10月から

インターネット上で日本語のニュース情報を配送・提供するサービスを、ハッピーサイズが10月1日から開始する。新聞社などから供給を受けるニュースの文字情報を、契約者に対してネットニュースの形式で配送するもので、ニュースが発生するたびにリアルタイムで提供する。パソコン通信などのニュースサービスとは異なり、契約者のコンピュータに直接配送されるため、接続時間を気にせずにニュースを読むことができ、また、契約者側で自由に検索することもできる。利用料金は未定だが、20人まで1万円、100人で5万円程度の月額固定料金となる予定。学術組織などへの割引制度も設ける。

問い合わせ

ハッピーサイズ(有) TEL 03-5803-2964

電子メール info@HappySize.co.jp

大和証券がIR活動を支援する 企業情報提供システムを開始

大和証券は、インターネットを利用した企業情報システム「コーポレート・インフォメーション・バンク」を開発、サービスを開始した。参加企業の「会社概要」「社長メッセージ」「財務データ」「IR情報」「トピックス」などの情報をWWWで提供するもので、7月25日現在、すでに35社が参加している。このサービスにより、投資家の株情報の要求、アナリストなどのニーズに応えていく。また、参加企業のIR活動を支援し、証券市場でのディスクロージャーを推進していく考え。企業側は自社でサーバーを用意する必要がなく、1年間70万円という低予算で情報提供ができる。画面制作、データ更新も大和証券が代行する。

問い合わせ 大和証券㈱IR室 TEL 03-3243-3504

URL <http://www.dir.co.jp/cib/>

サイバービジネス協議会発足 電子商取引の課題解決を図る

電子商取引(エレクトロニック・コマース)などネットワークを活用した新しいビジネスの実用化を図る「サイバービジネス協議会」の設立総会が7月27日に開催され、会長には一力健・電通国際情報サービス社長が就任した。

発足時の会員はNTTPCコミュニケーションズ、KDD、野村総合研究所、ニフティ、日本IBM、NEC、NTT、富士通など10会員で、今後、会員を広く募り、サイバービジネス振興のための活動を幅広く行っていく予定。具体的には、テレコムサービス協会マルチメディア実験協議会と日本電子メール協議会との間で実施される電子商取引のための共同実験について、必要な課題の検討・調査などを行う。

問い合わせ 財団法人テレコム高度利用推進センター TEL 03-3583-5811

米ネットスケープ社株式上場 500万株を公開

WWWブラウザ「Netscape Navigator」の開発元である米ネットスケープ社が8月9日、店頭市場に株式を上場した。同社株500万株を1株28ドルで売り出し、うち425万株を米国とカナダで、残る75万株を国際市場に振り分けた。全米証券業協会の店頭取引では当日の初値が71ドルで、すぐに75ドルまで上昇。その後53.75ドルまで下降したが、終値は58.25ドルとなった。この終値により同社株式の26.5%を保有するジム・クラーク会長は約5億6,580万ドルの資産を、2.7%を保有するマーク・アンダーソン副社長は約5,800万ドルの資産を手にしたことになる。

問い合わせ Netscape Communications Corporation TEL+1-415-528-2802

電子メール info@netscape.com/

URL <http://home.netscape.com/>

CSKがビジネス利用のための 「CommerceZIP」を構築

CSKはWWWを利用した情報発信サービス「CommerceZIP」を開始した。企業のホームページの登録やオンラインカタログショッピング、オンラインアンケートなどのビジネスに利用されるもので、米ネットスケープ社の暗号化技術を使用してクレジットカード番号など個人情報をやり取りする際のセキュリティを確保した。カタログショッピングでは、情報登録者自身が商品情報の編集をことができ、価格変動にも迅速に対応できる。オフィスビル、コンベンショナルセンター、美術館などから成る仮想空間を構築し、集客効果を高めている。

問い合わせ CSK インターネット事業部

TEL 03-5286-7156

電子メール

www-sh-admin@tecno.csk.co.jp

URL <http://www.csk.co.jp/comzip>

マック対応のWinSock API 米ネットマネージ社が開発へ

Chameleon (カメレオン) シリーズなどWindows用TCP/IPアプリケーションを開発している米ネットマネージ社は、マックOSに対応した「Windows Sockets 1.1 API」を開発することを明らかにした。Windows Sockets (WinSock) は、Windows環境のパソコンをTCP/IPサーバーへ接続するためのAPI (プログラミングインターフェイス) として開発されたものだが、これをマックOSにも対応させることにした。このAPIの開発により、マックOSとWindowsの各ネットワークアプリケーションの開発が共通化されることになり、既存のWinSock対応アプリケーションを簡単にマックOSへ移植できるようになる。

問い合わせ ネットマネージジャパン(株) セールス/マーケティング部

TEL 03-3221-8400

NTT四国が四国内の全中学校に 無料でパソコン通信体験教室

NTT四国は、社会貢献活動の一環として四国内の全中学校を対象に「パソコン通信体験教室」を展開する。電子メールなどの実習を通して中学生にパソコン通信を利用したコミュニケーションに慣れてもらうことを目的にしたもので、費用は無料。パソコン通信用の回線が整備されていない学校には臨時回線を引き、NTT四国の社員がデモを行う。2つの学校を結んでのチャットやインターネットの紹介も予定している。

問い合わせ NTT四国 TEL 0899-36-2035

香川県がパソコン通信サービス インターネットとも接続

パソコン通信ネット「かがわネット」が9月22日、香川県地域情報化推進協議会により運用開始される。香川県の地域情報ネットワーク整備の一環として構築されたもので、このほかインターネットを利用した県の主要プロジェクトや観光情報などの提供、県域の学術情報ネットワークの整備も行われる。

パソコン通信ネットで提供するのは、県政情報や一般広報、観光案内、県民情報など。ニフティサーブやPC-VANなどへのゲートウェイサービスや、インターネットとの電子メール交換も提供する。アクセスポイントは県内5か所で、高松地区から順次サービスを開始する。入会金は1,000円、年会費が1,000円の予定。

問い合わせ 香川県地域情報化推進協議会事務局 TEL 0878-26-2330

三栄書房の自動車専門誌 「オンラインマガジン・ムーブ」

三栄書房の季刊自動車専門誌「MOVE」のインターネット版「オンラインマガジン・ムーブ」が、NTTアドとの共同で8月からスタートした。MOVEの特集記事を中心に掲載するほか、音声やリアルタイムアンケートなども組み込む。また、オンライン広告も掲載する。今後、約1か月ごとに内容を更新する予定。

問い合わせ NTTアドSPイベント企画部
TEL 03-5421-7577

URL <http://www.ntt-ad.co.jp/move/>



「オンラインマガジン・ムーブ」

すでに2つの学校で行われた

DTPデータをHTML変換する WWW用出版ツール発売

恒陽社グラフィック事業部は、米アストロバイト社が開発したWWW出版ツール「BeyondPress Macintosh版」を日本語化し、今秋から発売する。このツールは、DTPソフト「QuarkXPress」で組んだ印刷用データを自動的にHTMLに置き換えることができる。これにより、WWWコンテンツ制作が容易になるほか、ワンソースパブリッシングも可能となる。価格は25万円。問い合わせ ㈱恒陽社グラフィック事業部 TEL 03-5479-5283



BeyondPress Macintosh版

WWWサーバー構築ツール「O2 Web」ゲッツブラザーズから

フランスのO2テクノロジー社が開発したWWWサーバー構築ツール「O2Web」が、日本国内ではゲッツブラザーズから発売された。このツールは、欧州トップの実績を誇るオブジェクトデータベース管理システム「O2」の機能と開発環境をそのまま活かしたもので、既存のデータベースのデータに手を加えることなく、そのままWWWサーバーに活用できる。このため、WWWのためにデータを構築しなおす必要がなくなり、低コストかつ迅速にWWWサーバーの構築ができるようになる。また、ホームページの作成はHTML言語による記述が不要で、ページのレイアウト、図形の表示などはO2Webが代行する。価格は58万円。問い合わせ ㈱ゲッツブラザーズインフォメーション・テクノロジー事業部

TEL 03-3423-6051

WWWサーバー構築の新技術 NTTが実用化へ

NTTは、インターネット上で本格的な情報システムを構築できる技術を開発、既存のデータベース情報をWWWサーバーから簡単に取り扱うことができる「WWWインターフェース用ソフトウェア」を実現した。この開発により、多人数からの要求を高速処理したり、利用者別に情報を限定したり、WWWを利用した効率的な商品情報発信システムなどの構築が簡単になるという。今回の開発は、NTTのクライアント/サーバー型データベース管理ソフト「VGUIDE」の機能をWWWサーバーから使いこなせるようにして実現した。今後、評価実験を進め、より使い勝手のいいビジネス用インターネット情報システムの構築技術として確立していく予定。

問い合わせ NTT研究開発本部研究開発推進部 TEL 03-3509-2461

Windows 95 最終版を提供 希望者を9月8日まで募集

NECは、Windows95の日本語最終ベータ版の利用希望者を募集する「Microsoft Windows 95 Preview Program」を開始した。PC98のWindows3.1ユーザーに対してWindows95のベータ版を提供し、先進的な機能をいち早く体験してもらおうというもので、募集期間は9月8日まで。募集数は先着順限定1万本。CD-ROMの提供のみで、価格は4,000円。

応募方法はハガキかFAXで、郵便番号、住所、会社名、氏名、電話番号、利用する機種名を記入して送付する。送付先は、〒305茨城県つくば市梅園2-17-9 NEC パーソナルソフトウェアカスタマサポートセンター「NEC Windows 95 Preview Program 係」FAX 0298-53-1377まで。

問い合わせ NECパソコンインフォメーションセンター TEL 03-3452-8000

東芝情報システムが接続ソフト とセキュリティルーター発売

東芝情報システムは、DOS/V用のインターネット接続ソフト「INTERNETpro V1.0」を発売する。また、米NSC社開発のルーター「The Security Router」の国内販売も開始した。

接続ソフトはダイヤルアップ接続で利用するインターネット機能を網羅。PPP接続、電子メール、TELNET、FTPの各アプリケーションのほか、WWWブラウザとして「Netscape Navigator」をバンドルしている。価格は19,800円。ルーターは、NSC社独自のアルゴリズムによる暗号化機能と、5段階のフィルタリングポイントを設定できるファイアウォール機能を搭載したのが特徴で、インターネット上のセキュリティを確保できる。価格は270万円から。

問い合わせ 東芝情報システム㈱オープンネット事業部 TEL 044-246-8477

エイプラスがISDNボード PC98用など3種類発売

エイプラスは64Kbpsの同期通信が利用できるISDNボード3種類を発売する。まず、PC98用の「APIB-98」とISAバス用の「APIB-AT」、追ってPCMCIA用の「APIB-JDA」も発売する。価格はいずれも55,000円。Windows対応のTCP/IPソフト、PPPドライバーも付属している。製品は同社のホームページから注文することもできる。

問い合わせ ㈱エイプラス

TEL 03-5281-2067

URL <http://www.mmjp.or.jp/aplus/>



PCMCIA用の「APIB-JDA」

1024ビットの暗号化技術 フォーバルクリエティブから

インターネット関連ソフトを販売するフォーバルクリエティブは、インターネット上のセキュリティを強化できる暗号化技術「1024bit RSA+DES」の販売を開始した。イスラエルのアルゴリズム・リサーチ社から日本国内での独占販売権を取得したもので、サーバー・センター構築サービスとクライアントツール「CryptoKit」(31,250円～120,000円)の販売を行う。これまで日本に導入されていたRSA(公開鍵管理方式)/DES(データ暗号規格)は、40ビットか50ビットのものしかなく、オンラインショッピングなどのセキュリティ確保では問題があった。

問い合わせ ㈱フォーバルクリエティブ
TEL 03-5800-2831

電子メール info@forval-c.co.jp

URL <http://www.forval-c.co.jp/>

I.O.データが28800bpsモデム インターネット無料接続も実施

アイ・オー・データ機器は、28800bpsの高速FAXモデム「DFM-288」と、14400bpsのPCMCIA Type 用FAXモデムカード「PCFM-144」を発売した。購入者にはインターネットに無料でアクセスできるキャンペーンも実施する。両製品ともインターネット接続ソフト「AIR NAVIGATOR」が標準添付されており、インターネットの主要機能が利用できる。

このほか、Windows版FAXソフト「Jet-FAX」やDOS版通信ソフト「WTERM」、MS-DOS版ネットワーク対戦型パッチャル3Dゲーム「DOOM 特別版」なども添付されている。価格はDFM-288が29,800円、PCFM-144が24,800円になっている。

問い合わせ ㈱アイ・オー・データ機器 新製品案内窓口
TEL 03-5256-1024

URL <http://www.iodata.co.jp>

アライドテレシスTCP/IPソフト にNetscape Navigator添付

アライドテレシスは、インターネットに接続できるTCP/IPソフト「CentreNET PC/TCP」をバージョンアップするとともに、米ネットスケープ社のWWWブラウザ「Netscape Navigator」を標準添付して発売した。今回のバージョンアップは、標準的WWWブラウザとしての地位を確立しているNetscape Navigatorを添付することにより、インターネット接続に利用するユーザーの獲得を狙ったもの。価格はTCP/IPプロトコルスタックと通信アプリケーションという構成の「PC/TCP Ver.5.0 Basic Kit」が25,000円、これにNFSクライアントを付加した「Advanced Kit」が50,000円。既存Ver.4.xからのバージョンアップキットは10,000円。

問い合わせ アライドテレシス㈱営業本部
TEL 03-3443-5640

「OS/2 Warp V3-日本語版」 98用をNECが新発売

NECは、PC-9800シリーズ対応の32ビットマルチタスクOS「OS/2 Warp V3-日本語版」を発売した。同OSはIBMが開発しDOS/Vマシン用に今春から発売されているが、今回、PC98シリーズ用に移植し、NEC版として商品化したもの。高速並列処理が可能などの特徴のほか、インターネットアクセスツール「Internet Connection for OS/2」など8種類のアプリケーションがボーナスパックとして標準添付されている。CD-ROMで提供され、価格は14,000円。また、同時に「コミュニケーションマネージャ/2 バージョンJ1.11(A)」(84,000円)や、「OS/2 LANサーバ バージョンJ4.0/エントリ」(99,000円)など8ソフトも発売した。

問い合わせ NECパソコンインフォメーションセンター
TEL 03-3452-8000

Mac用WWWサーバーソフト 「WebSTAR」日本語版発売

URL 米国スターナインテクノロジー社が開発したマッキントッシュ用のサーバー構築ソフト「WebSTAR 1.1」の日本語版が、9月5日よりSRAより発売される。価格は85,000円(英語版は75,000円)、教育機関向けには特別価格43,000円(英語版は37,000円)で提供される。

この製品は、MacHTTPをもとに製品化されたもの。UNIX上のWebサーバーに比べ、操作が簡単で、処理速度が速い。また、AppleScriptをサポートしているので、データベースソフトなど、マッキントッシュの他のソフトウェアと連携したシステムが構築できる。また、Netscape NavigatorなどのWWWブラウザと1台のパソコンで共有できるので、個人でホームページを作成して発信するなどの手軽なニーズにも応える。

問い合わせ ㈱SRA TEL 03-3234-5441

マルチメディアグランプリ'95 作品応募締切り迫る

マルチメディアソフト振興協会(MMA)が「マルチメディアグランプリ'95」の作品を募集している。これはマルチメディアソフト産業の総合的な育成と振興を目的に、さまざまなジャンルの映像作品および制作者を表彰するもので、1986年から開催されており、今年が10回目。インタラクティブ分野(パッケージ、シアター・展示、ネットワーク)と、ノンインタラクティブ分野(CG、ハイビジョン、シアター・展示、ビデオ)に大別し、それぞれ最高賞として通商産業大臣賞、MMA会長賞が贈られる。ネットワーク部門の応募締切りは9月7日。

問い合わせ 財団法人マルチメディアソフト振興協会企画部
TEL 03-3506-1702

URL <http://www.inter.co.jp/mmg/>

取材・文/堀悦夫、編集部

News on the NetNews

今月からインターネットの「ネットニュース」で交わされている話題から、ホットなものを編集部が選び、ダイジェストを紹介していく。ネットニュースはパソコン通信サービスでも読むことができるので、この記事に興味をお持ちになった方は実際に参加してみてもいいだろう。また、日本語の使えるネットニュースのニュースグループは別冊付録で紹介しているので併せてお読みいただきたい。

チェーンメールで核実験反対の署名集め

fj.mail/fj.soc.media/fj.announce

7月初め、fj.mailで「チェーンメール」論争がまき起こった。チェーンメールはネットワークのトラフィックを増大させてパンク状態を引き起こす可能性があると言われていた。従来は他人に対して「いやがらせ」をするために送付される場合が多かったが、今回の場合は事情が複雑。同チェーンメールは、フランスの核実験再開への反対署名運動が目的だったからである。

始めたのは東大の大学院生のグループ。6月下旬に配布を開始した。メールには「このメールはフランスに核実験をやめさせることを目的としたチェーンメールである。賛同者は署名し、文面をコピーして知人に配布してほしい。100番目、200番目、X00番目に受け取った人は、名簿を送り返してほしい」という内容が英語で書かれている。

このグループはチェーンメールの配布を開始したあと、署名集めをよびかけるためのホームページも作成した。ホームページでは、主旨に賛同した人が西原氏らにメールを送るシステムになっており、チェーンメールとは事情が違う。しかし、ホームページは新聞にも報道されており、「インターネットで署名ができる」ということを強調した記事も見られた。主な新聞がチェーンメールについて全く触れず、ホームページの話題だけに終始したことへの不満を投稿した人もいた。

ネットニュースの参加者の中にも同じチェーンメールを受信した人が数人いる。その人の投稿から議論が始まったケースもあった。「核実験再開への反対運動だから」という理由で、チェーンメールという方法もやむを得

ないという意見も投稿され、「内容がどうであれ、チェーンメールは絶対に反対」という意見の人と激しい議論を戦わせたということもあった。

7月末、同チェーンメールを始めた2人がfj.announceなどで謝罪を表明。今回の事件について大変反省しており、送ったチェーンメールが配信されてきたらそれ以上上げるようなことはしないでほしい、という内容の記事が投稿された。チェーンメールは2通配信されており、1通は最初のメールを訂正するためのものだったという。

一連の事件をきっかけに、fj.mailやfj.soc.mediaなどではチェーンメールについての議論が活発になった。別のチェーンメールが例として投稿されたり、「4人に1人が、それぞれ2人に再発送したら100番目の人は何人になるか」など数学的に計算して、チェーンメールのおそろしさを実証する人がいたり、議論はバラエティに富んだ。「出した以上はもうしょうがないから、初志を貫徹してフランス大使館に送り届けてほしい」という

内容の記事も投稿された。8月4日、西原氏らがホームページに集まった署名を抗議文とともにフランス大使館に渡したことは、新聞などで報じられている。チェーンメールで集めた署名についても、8月末に大使館に渡す予定だという。

NTTの定額制導入を活用したアイデアが提案される

fj.os.bsd.freebsd/fj.net.misc/
fj.net.ip/fj.net.phones

NTTが8月にはじめる定額制サービス「テレホーダイ」を活用し、長距離を結んで夜間だけの専用線をつくってしまおうという「東海道53次」計画が提案された。東京から大阪まで数十台のモデムでリレー接続し、各中継点ごとに定額制を申し込む。UNIXマシンでつなげば、定額制が適用される時間帯には専用線感覚でキャラクターベースの通信をすることができる。この提案に数人が呼応し、活発な意見が寄せられた。

新しく作られたニュースグループ

fj.news.lists, fj.news.group, fj.archives.answers に7月25日に投稿された「Active Newsgroups List of fj(中川寛治氏作)」によると、7月中旬に新設されたニュースグループは以下の通り。

| | |
|-------------------------------------|---|
| fj.net.infosystems.www.authoring | WWWのページの作り方に関する話題。 |
| fj.net.infosystems.www.browsers | WWWのブラウザに関する話題。 |
| fj.net.infosystems.www.servers | WWWのサーバー用ソフトウェアに関する話題。 |
| fj.net.infosystems.www.pages | 誰かのWWWページに関する話題。ページの紹介もよい。 |
| fj.mail.lists | Mailing listに関する議論。 |
| fj.rec.games.video.home.playstation | プレイステーションに関する話題。 |
| fj.rec.games.video.home.saturn | サターンに関する話題。 |
| fj.comp.announce | コンピュータ関係の各種の案内。会合等でもコンピュータ関連のものならばfj.meetingsより、こちらが適切。Followup-To: で、フォローアップするニュースグループを指定する。 |
| fj.sci.philosophy | 哲学に関する議論。 |
| fj.sci.economics | 経済学に関する議論。 |
| fj.soc.economy | 放送・出版などを含む通信媒体の社会的側面に関する議論。 |

米国ノベル社に聞くインターネット戦略

『コンポーネントからパッケージへ --- ネットウェアサーバーをベースにしたインターネットシフト』



アドバンスド・アクセス・アプリケーションズ
プロダクト・ライン・マネージャー

クリストファー・ジョンソン氏

アドバンスド・アクセス・アプリケーションズ
アジア太平洋地区担当
フィールド・マーケティング・マネージャー

ジョー・ボスルジ氏

聞き手: 中島由弘

(インタ・ネットマガジン編集部)

ノベル社の製品はパーソナルコンピュータのLAN市場において、圧倒的なシェアをもっていますが、インターネットへの対応はどのようにお考えですか？

すでにネットウェアとインターネットをつなぐためのいろんな製品を用意していますが、現在ではあくまで「コンポーネント」としてそろえています。これからはパッケージとして提供していきたいと思います。まず、LANをインターネットにつなぐ方法とダイアルアップ接続という方法のどちらに対しても、ソリューションを提供していきます。また、ブラウジング、メール、ファイル転送、ターミナルエミュレーションをパッケージでも個別でも選べるようにしようと思います。そして、インターネットのインテグレーションを、ノベル社ではPCではなくサーバーのレベルで考えます。すでにネットウェアサーバーを導入しているような組織についてです。個々のPCをインターネットに接続する場合には「LANワークプレイス5」や「マルチプロトコルルーター-3.0」。「LANワークプレイス」の日本語版はバージョン5も発売します。これはサーバーとの接続を提供するものです。「ワード

パーフェクト」と「ワードパーフェクトパブリッシュ」という製品ではHTMLを知らなくても情報を出せるようになります。また、インターネット上でのパブリッシング、つまりWWWを使った情報提供サーバーを構築するためには「UNIXウェア」があります。「ネットウェア」で情報のパブリッシュができるようにするためのソフトも来年にかけて用意します。

最近では、エレクトロニックコマースなどの話題を数多く聞きますが、ノベル社でもエレクトリックコマースを実現するための製品は用意していくのですか？

もちろん、インターネット上で売買ができるようにしたいと思います。そのためには安全な環境で作らなければなりません。そこで「ネットウェアコネクタサービス(NCS)」という独自のパブリックネットワークを提供していきたいと思います。まだ、具体的に決まっているわけではないのですが、すでにAT&Tなどの電話会社とも話をしています。もちろん日本での展開も考えています。第1段階では利用者同士の接続を確立したいと思います。私たちは「グロ

ーバルインフォメーションダイアルトーン」といっていますが、これは、ちょうど電話をかけたいと思ったときにダイアルすれば誰とでも通信できるように、データ通信でも同じようなことを提供しようとしています。もちろんインターネットと共存しながらパブリックな通信とプライベートな通信とを分けて考えていこうとしています。

LANやインターネットは、もともとホットな話題になっていますが、これから先、ネットワークはどのように利用されて伸びていくのでしょうか？

インターネット上の商取引はこれからどんどん増えるでしょう。それに、ホームLANや双方向テレビ、ビデオオンデマンドだけではなく、エアコンなどの機器をネットワークでコントロールしたり、通信教育のようなものにネットワークを使ったりすることもできますね。そういえば、最近カリフォルニア州では、会社にこなくても仕事をすることが始まっています。日本ではすぐに受け入れられるかどうかはわかりませんが、こうしたことも、ネットワークがあってできることですよね。

電子メールソフト

お待たせしました、ついにウィンドウズ版登場 Eudora PRO for Windows 日本語版

動作環境：Windows3.1以上

発売元：株式会社クニリサーチインターナショナル

連絡先：〒550大阪府大阪市西区立売堀3-7-13 木戸ビル2F TEL 06-538-9701

発売予定：1995年9月末

価格：未定

インターネットを生活環境にしていると、どうしてもこだわってしまうのが電子メールソフト。これまでの定番といえば、マッキントッシュを使っている人なら「ユードラ」の名前をあげるだろう。一方、ウィンドウズ用はこれまで残念ながら決定的な定番となるソフトウェアはなかったのだ。ユードラのウィンドウズ版もあったが、日本語化されていなかったが、いよいよこの9月、日本語化されたウィンドウズ版が登場する。

ついに自動振り分け機能がついた！

この「ユードラ」のすぐれているところは、まず、自動的な処理をある程度させることができること。つまり、到着したメールの差し出し人やサブジェクトなどをもとに、特定の動作をさせることができるのだ。たとえば、内容別に自動的にフォルダに整理してくれたり、機械的な返事を自動的に出してくれたりというわけだ。筆者との打ち合わせメール、読者からの質問メール、メーリングリスト...といった具合だ。

UNIXのメール環境と同期できる

この手のメールソフトはPOP3というプロトコルを使って、UNIXマシンなどのメールスプールにたまったメールをパソコンにダウンロードして読んだり、パソコンの上でメールを作成してSMTPプロトコルでメールサーバーに送ったりする。しか

し、1度スプールから読んだメールは、基本的にはスプールから削除してしまうことになるので、出張先からモデムでダイヤルアップした場合などに、スプールに残っている過去のメールやペンディングしてあるメールを読むことができない。かといって、スプールに残したままにしておくと、POPプロトコルでメールをとるたびに過去のメールのすべてをダウンロードすることになってしまうソフトが多かった。しかし、「ユードラ」ならメールスプールにメールを残したままでも、次回アクセスしたときにはすでに手元にダウンロードしてあるメールについては転送せず、新しいメールだけをダウンロードするようになっている。会社と自宅の両方のマシンで仕事をするような人にとっては必須の機能だといえるだろう。

エンコーディング形式が選択できるちょっと地味ではあるがエンコーディングの形式を選べるという点もあげておこう。インターネットの電子メールでバイナリを送る場合は、テキストファイルに変換(エンコード)して添付することになる。しかしエンコードの形式がオペレーティングシステムによって異なるので、やりとりする場合にちょっと厄介だった。そこで、バイナリメールを添付する場合のエンコーディング方式を相手のプラットフォームに合わせて選ぶことができるようになっている。相手がマッキントッシュなら

BinHexで、それ以外ならBase64などのMIMEエンコーディングがUNIXならuuencodeといった具合だ。これを送信側で選べるのだ。これで、ウィンドウズからも心おきなくBinHexで変換したバイナリメールをマッキントッシュユーザーに送ることができる。

ニックネームはUNIXから移行できる

ニックネームといって、どうしても長くなりがちな電子メールアドレスをもっと覚えやすい名前で登録しておくという機能がある。ユードラでは、UNIXのアリアス形式、つまり.mailrcのファイルそのままニックネームのデータベースとして使えるのだ。mailrcというファイルをUNIXからダウンロードして、NNBASEというファイル名に付け替えるだけでOK。新規に追加されたものもその形式になるので、UNIXとの間でデータを共有することもカンタンだ。これまでUNIXを使っていた人にとってはうれしい機能だといえるだろう。

これ以外の機能もたくさんあるが、詳細は次号以降で詳しい解説をする予定だ。また、今回試用したものはバージョンなので、細かい機能や画面は変わる可能性があるが、操作性のすぐれたソフトであると期待できる。同機能のマッキントッシュ用「ユードラ」も年内に発売を予定している。

(編集部nakajima@impress.co.jp)



ワープロ+インターネット接続

国民的ソフトもインターネットに対応 一太郎 Ver.6.3 for Windows

動作環境：Windows3.1以上
 発売元：株式会社ジャストシステム
 連絡先：〒770-75徳島県徳島市沖浜東3-46
 標準価格：58,000円（CD-ROM版） 68,000円（FD版）
 新発売特別価格：40,000円（CD-ROM版） 48,000円（FD版）
 インフォメーションセンター：TEL 0886-52-8555
 電子メール info@justnet.or.jp

本誌9月号で浮川社長のインタビューを掲載したとおり、一太郎はワープロ的な進化だけではなく、ついにインターネット機能までも内包してしまったのだ。いま、「ニッポン人」の一番の関心事といえば「インターネット」といっても過言ではないが（ホント？）、日本のベストセラーワープロがインターネット分野に進出したことで「駄目押し」状態となったのだ。しかも、ソフトウェアがついているだけではない。ジャストシステムのインターネット接続サービス「ジャストネット」に接続できる。ということは一太郎を買うとなんとWWWを使ったり、電子メールを使ったりできてしまう。

なお、編集部で入手したのは発売前のベータ版。ここでは、おおまかな機能紹介をすることにする。細かい機能や画面などは実際に発売されたときには変わる可能性もあるので注意してほしい。

インターネットに「とりあえず無料（12月まで）」でアクセスできる！

「ジャストネット」は、インターネットへの接続サービスを提供するプロバイダーだ。通信速度は28.8Kbpsまで利用できる。正式なサービス開始は1996年1月を予定しているが、それまではなんと「無料」でインターネットにアクセスできる。ただし、アクセスポイントはとりあえず東京だけ。正式サービス時点では、全国にアクセスポイントができる予定だという。

実用の電子メールと会議室

ジャストネットにつなげるためには、一太郎に付属している専用ソフトウェアを使う。WWWブラウザは「ジャストビュー」、電子メールは「ジャストメール」という付属のソフトウェアを使う。ジャストメールでは、一太郎で作成した文書をそのまま送信できる。さらに、「ジャストビュー」では、ジャストネットのユーザー間での情報交換をする「会議室」に参加できる。また、オンラインショッピングモールなどのサービスやコンテンツの提供なども計画されていて今後の展開は興味深い。

HTMLを使ったホームページ作成も支援

一太郎には、HTMLを使ったWWWのページを作成を支援してくれる機能がついている。一太郎上でHTMLを生成するためのテンプレートを読み込み、そこで文字を書いたり、画像を貼り込みながら属性をつけていく。つまり、「これは大見出し」とか「これは箇条書き」とかといった具合だ。もちろんアンカーと呼ばれるハイパーリンクも記述できる。このファイルを「SGML保存」というメニューを選ぶことでHTMLを生成してくれる。いままでのように手で一つ一つHTMLのタグ（制御コード）をテキストに埋め込んでいたことを考えるとはるかに楽になる。しかし、ある程度のHTMLの基礎知識がないと使いこなせないのも事実。一

太郎バージョン7ではこの辺りの機能強化も予定されているようなので期待したいところだ。作ったHTMLファイルはぜひジャストネットの中に置けるようにしてもらいたいと思う。

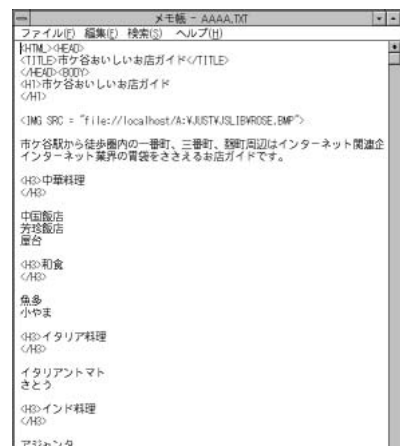
（編集部nakajima@impress.co.jp）



ジャストビューでWWWブラウジング



文書を作成しているところ



HTML型になった文書

パソコン通信 WWW ブラウザ

パソコン通信でWWWを使おう

ピープルワールドトーク

People WorldTALK

動作環境：Windows3.1 (Macintosh用は検討中)
 発売元：株式会社ピープルワールド
 テニック株式会社
 問い合わせ：株式会社ピープルワールドサービス企画
 TEL 03-5561-4190

株式会社ピープルワールドは、パソコン通信サービス「ピープル」からインターネットのWWWサーバーにグラフィカルな画面でアクセスできるソフトウェア「People WorldTALK」を発表した。

TCP/IP じゃないBBS型！

従来、WWWのサービスを受けようとした場合、インターネットサービスプロバイダーと契約し、TCP/IPやPPPなどのプロトコルを使わなければならなかったが、このソフトを使えばインターネットに接続するための特別な知識がなくても簡単に接続でき、しかもアクセス時間に応じたピープルの利用料金だけで世界のWWWサーバーにアクセスできる。

また、モデムを使った低速な通信を考慮し、テキストのみのモードや画像をモノクロにして圧縮するモードなどが用意されたり、利用者のハードディスクとピープルのサーバーでも、一度読んだ

WWWについての情報をキャッシュ（一時的に保存）し、パフォーマンスの向上を計る工夫がされている。ただ、流行のNetscape拡張機能は表示できない。

Guippy といずれ統合する

現在は、Peopleのアクセスソフト「Guippy（グイッピー）」とは別のソフトになっていて、Guippyを切ったからWorld Talkを起動して、またダイヤルをしないとイケない。将来的には、Guippyとの統合も計画されており、電子メールをはじめ、ひとつのソフトウェアですべてのインターネットアクセスができるようになる。

このように、パソコン通信サービスからWWWにアクセスする機能を提供しているのは、国内ではASAHIネットが文字ベースで行っていたが、グラフィカルなインターフェイスで本格的なWWWの表示機能を提供するのは日本で初。米国ではすでにプロディジー、アメリカオンライン

が同様なサービスを提供している。

アクセスポイントを豊富にもつ「ピープル」がこのようなサービスを開始することで、日本全国の多くの人々が、いまよりも手軽にWWWの楽しさを体験できるようになるものと期待されている。また、ニフティサーブもこうしたソフトウェアの開発を表明しているため、今後はパソコン通信サービスからのWWW利用に拍車がかかるものと思われる。

(編集部nakajima@impress.co.jp)



これはPeople専用のアクセスソフト「Guippy」の画面。IBMの一部のパソコンにプレインストールされている。現在はここからWWWは使えない。



World TALKの起動画面。アクセス番号とモデムの機種を選ぶセットアップを終えてから起動する。左のWWWサイト一覧から選べばURL入力は不要。



WWWブラウジング。まず文字が出てその後画像が上からゆっくり表示される。ページによっては14400bpsでないといらいりする。

| | オンライン販売 | パッケージ販売 |
|------|-----------------------|--|
| 価格 | 1,000円 | 8,800円 |
| 発売時期 | 9月6日 | 9月中旬 |
| 内容 | WorldTALK オンラインヘルプ | WorldTALK マニュアル Guippy for Windows Peopleエントリーパック 1000円分の使用権 音声再生、画像表示の外部アプリケーション |

翻訳 + WWW ブラウザー

日本語版 Netscape に翻訳機能まで
NetSurfer/ej for Windows

動作環境: Windows3.1以上

発売元: 株式会社ノヴァ

連絡先: 〒150 東京都新宿区荒木町23番地鈴商ビル202 TEL 03-3352-3505

価格: 29,800円

国内でも個人が次々とホームページを開き、日本語表示のページが増えてきたり、WWW ブラウザーも次々に日本語対応版がリリースされたりと、日本語環境が徐々に整ってきている。これなら、英語が苦手でも楽々ネットサーフィンだ! と思っている人もいるだろう。しかし、WWWで得られる情報の大半は、悲しいかな、まだ英語である。英語を苦痛と感じる者は、英和辞書を抱えるか、英和辞書ソフトを組み込んで単語をひきながら、苦悩のネットサーフィンとあいなるわけだ。

NetSurfer/ejは、英日翻訳機能付きWWW ブラウザーである。英語を得意としない我々からすると、WWW ブラウザー + 翻訳機能のソフトウェアは、ネットサーフィン用のサーフボードにモーターがついたかのように思えてくる。

ブラウザはNetscape

ベースとなるWWW ブラウザーは、業界標準のNetscape Navigator (ネットスケープ・ナビゲーター) の日本語版。NetSurfer/ejを起動させるとNetscape Navigatorが立ち上がり、翻訳機能部分が拡張されたかのように見える。基本機能が充実しているブラウザであるから、凝ったレイアウトを施したページの表示も大丈夫である。最近は推奨ブラウザとしてNetscape Navigatorを指定するケースが増えているが、これなら安心だ。

ページ翻訳で日本語ページを表示

最近は単体の翻訳ソフトもたくさん発売されているが、WWW ブラウザーと別であるとデータの受け渡しが面倒になる。表示される英文のページから必要な箇所をコピーし、翻訳ソフトに切り替えて張り付ける。翻訳処理の前にこれだけの手間が必要だった。NetSurfer/ejは、追加された小さなウインドウの翻訳アイコンをクリックするだけだ。あとは、オリジナルそのままにレイアウトされた日本語のページを別のウインドウに表示してくれる。原文と訳文が同時に表示できるわけで、対比して試みるのが簡単だ。画像やリンクもオリジナルのままに再現された日本語ページは、そのまま他のページに移動できるようになっており、まるで日本語のページが最初から用意されていたかのように、操作していても心地よい。

対訳モードで部分翻訳

ページ単位の翻訳は時間がかかるもので、100行もあるとコピー・ペーストになるぐらいだ。必要な部分だけを選択して翻訳する対訳モードはこんなときに使う。英文をざっとみて、必要だと思える場所だけを翻訳するので必要最小限の時間だけあればよい。すると、英文と訳文を比較表示してくれる。クリップボード経由で英文を読み込むので、電子メールなどの他のアプリケーションと組み合わせて使うこともできる。この部分は同社の翻

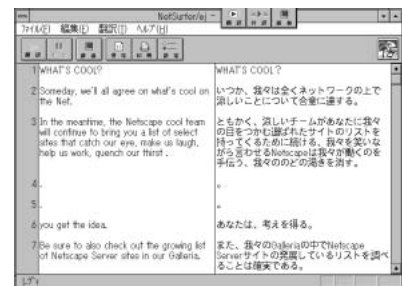
訳ソフトPC Trancerシリーズと似ている (NetSurfer/ejのアイコンはPC Trancerのアイコンに出てくる鳥がサングラスをしてビーチにいるデザイン)。

ちょっと使うなら辞書機能

NetSurfer/ejは基本語約7万語を備え、ユーザー辞書は最大10万語まで登録できる。その辞書を参照する機能が「辞書引」で、英和辞典ソフト代わりに使うことができる。ユーザー辞書には名詞しか登録できないので、PC Trancerの分野別辞書など使えないことになる。

翻訳結果は、中学生をアルバイトに雇って訳してもらった程度である。翻訳しやすい文章は十分に読める内容になるが、難しい文章は単語の訳をただ並べているだけかのように思える。高度な翻訳は無理なので、英文と対比させながら雰囲気を読む程度に割り切って使わなければいけない。実用的ではないと思っても、辞書を持つ手が疲れたら使ってもいいかなど迷ってしまう価格は魅力的だ。

(菊地宏明)



対訳モードのウインドウ



ページ翻訳の結果

インターネット接続ソフト

あのみと〜く」のダイヤルアップIP接続版登場
まいと〜く INTERNET <モデム接続版>

動作環境：Windows3.1以上

発売元：株式会社インターソフト

連絡先：〒110東京都台東区北上野1-10-14住友上野ビル5号館 TEL 03-3842-6022

価格：19,000円

「インターネット」と「パソコン通信」ってどう違うの？これが今まで編集部で受けた質問でもっとも多いものかもしれない。すでにLANを使っている、それがインターネットにも接続したという環境を体験した人は、あまりこうした疑問を抱かないかもしれないが、ダイヤルアップでプロバイダーに接続して、メールやWWWを使いはじめた人にとってはこうした疑問が生じてあたりまえかもしれない。ソフトを設定してモデムで電話して、メールを読んで、WWWで情報を見る……。そうにもパソコン通信とは変わらないのだ。

インターネット接続ソフトのベストセラーをコアに！

さて、パソコン通信を使っていた人にはおなじみの通信ソフト「まいと〜く」のインターネット接続ソフトが登場した。これはダイヤルアップIP接続、つまりPPPでインターネットに接続するのに必要なソフトとインターネットのアプリケーションが付属している。付属しているソフトはWWWのブラウザ、電子メール、ファイル転送、TELNETなど必要になると思われるものがほとんどついている。

実際にインストールして使ってみると、どうやらすでに発売され、多くの人が使っている「AIRシリーズ」や「インターネットオフィス」という製品と同一のコアを採用し、ユーザーインターフェイス

の部分で「まいと〜く」らしさを出すように改善してあるものようだ。

LCR機能と通信料金集計機能というわけでインターネット接続の機能やアプリケーションとしては、あらためて紹介する部分はないのだが、インターネットのダイヤルアップユーザーにとってうれしい機能がついている。それは「LCR機能」という低料金の回線を自動的に選択する機能だ。NTTのほか、日本高速通信、日本テレコム、第二電々と契約している場合、時間帯や相手のアクセスポイントの所在地（電話番号から判定する）に応じて、もっとも安価な通信業者を自動的に選択してダイヤルしてくれるというものだ。

そしてもう1つ、「通信料金集計機能」もある。これはNTTなどの回線費用はもちろんのこと、接続しているプロバイダーの通信単価や基本料金をあらかじめ設定しておけば、接続時間に応じて、いくら使ったかが一目瞭然というものだ。パソコン通信用の「まいと〜く」には、これらの機能がついていたので、もう目新しいものではないかもしれないが、インターネットの接続ソフトでこの機能がついているのはユニークだ。

まあ、インターネットの場合、実際はパソコン通信のように、各地の無料の草根BBSにのびのび電話をしたりすることもないだろうし、多くの人にとって

LCR機能はあまりおいしい機能ではないかもしれない。しかし通信料金集計機能はなかなか使えると思った。WWWやネットニュースなど、接続しながらでないと使えないアプリケーションを使っていると、時間が経つのも忘れてしまうほど没頭してしまうが、そんなとき使った時間と料金をみて、ちょっとだけ反省してしまったりするのだ。

さて、このようなダイヤルアップをするソフトの場合、モデムへの対応というのが重要なポイントとなる。この「まいと〜く」の場合、モデムへの対応は充実しており、約50種類のモデムをサポートしており、機種名を選択するだけで、面倒くさい初期化などのコマンドを自動的に送出してくれる。このあたりはエンドユーザーには難しいとされているポイントなので、多くのモデムをサポートしているというのは重要なポイントだろう。

なお、モデムを使ったダイヤルアップではなく、LANに接続するバージョンも現在開発中とのこと。価格など詳細は未定だ。

(編集部 nakajima@impress.co.jp)

LCRの設定画面

(自分の電話番号と契約して回線業者を選ぶ)

通信料金の集計画面

(回線料とプロバイダーの利用料が表示される)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp